

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



## 話し方の技術

まなびの教室の指導場面でのことです。6年生のAさんと4年生のBさんの2人組指導の日でした。この日は、「5年生講座」と銘打って、AさんからBさんへ、5年生での学習や行事について説明をしました。Bさんはメモを取りながらその話を聞いていました。そんな中でのエピソードです。

A : 5年生になると家庭科が始まるよ。調理と裁縫をやるよ。

(Aは、自分の経験を思い出しながら詳しく話そうと意気込んでいた。)

A : 調理では、ご飯とお味噌汁を作るよ。

B : (間髪を入れず)簡単じゃん。

A : (いつもは声を荒げることはないのだが、この時は声を荒げて)

機械でスイッチ入れて作るみたいに簡単じゃないの。昔の人みたいに、鍋で火を調節しながら作るの!!

教師 : 巻き戻します。

(会話をいったんとめ、今のやりとりを振り返ることにした。Aさんは、Bさんに家庭科の学習内容を伝えようとしていたことを確認してから)

今日、Aさんが途中から、いつもより大きな声で話し始めたでしょ。それは、Bさんの返事を聞いて、自分の伝えたいことが伝わっていないと思ったからだよ。

人の話を聞いて返事をする時は、話をした人のことばを使って返事をすると誤解されないよ。例えば、

A: 調理では、ご飯とお味噌汁を作るよ。

B: 簡単じゃん→私も、ご飯とお味噌汁を作ったことがあるよ。

そうすると、Aさんの次のことばがかわっていたよ。

A: 作ったことがあるんだね。家庭科では鍋で作るけど、鍋で作ったことはある?



以前出会った通級児と、他者とのかかわり方の学習として、「話が続く返事がいい返事だね。」という勉強をしたことを思い出しました。

授業中の話し合いの場面で、「〇〇さんと似ていて…」 「〇〇さんに反対で…」などの、前置きを入れることがあります。発言をした人に対して、「あなたの発言を聞いていましたよ。」「あなたの発言内容が伝わりましたよ。」というサインなのだあらためて思いました。

まなびの教室には、悪気はないのですが、相手の気分を害してしまうタイプの子も通級しています。相手が気分を害したことや相手が気分を害する原因を自分が作ってしまったことに気づけないのです。「〇〇と言ったら相手はどう思うかな。」と慮ることは苦手なので、話し方の技術として、「人の話を聞いて返事をする時は、話をした人のことばを使って返事をする」と覚えさせることが近道です。